東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 31 年２月 25 日　第８巻（第３号）

発行：東京都新宿区住吉町 8−2０ 四谷チンゴビル2F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

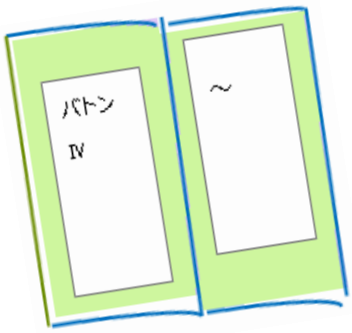
もくじ

１．　石巻現地　現在の復興状況
２．　夢と希望の会～新春ゲーム大会
３．　WHO 版心理的応急処置研修に参加して
４．　災害支援チームからお知らせ
５．　災害支援ニュース発行のお知らせ
６．　あとがき

お　知　ら　せ

「東日本大震災
医療ソーシャルワーカーの支援のバトン
Ⅰ　～　Ⅳ　」
が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ
及び　【1．書籍販売】をご覧ください。



≪　支援活動地域別　仮設住宅報告　≫
（　宮城県保健福祉部震災援護室　仮設入居状況より抜粋　）

石巻市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況（H31 年２月１日）
入居戸数　　１０４戸
入居人数　　２０３人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況（H30年12月31日）
入居戸数　　６２戸
入居人数　　１５５人

1．石巻現地　現在の復興状況

≫≫≫　石巻の復興状況を写真で知ろう　≪≪≪

〔石巻の現在〕　現地からの報告

仮設開成団地の解体が始まっています。

開成団地は計 14 団地。戸数は 1100 戸を超える、市内でも大きな仮設住宅団地になっていました。

この開成団地は、第 10 団地、第 13 団地の２団地が平成 31 年９月の供与期限をもって、全ての団地が入居できる期限の終了を迎えます。

開成の仮設跡地に建築される、新複合文化施設の建設工事の様子です。

東日本大震災で全壊した石巻市文化センターと市民会館に代わる施設として、2021 年 3 月に開館を目指しています。大小のホールや市民ギャラリー、研修室やアトリエを備えるとのことです。

外観は、三角屋根の古民家が立ち並ぶ昭和初期の風景をイメージしたようで、バリアフリーや緑化にも積極的に取り組む方針とのことです。

（参考：『河北新報』　2018/7/14　河北新報社）

「新内海橋」の建設工事の様子です。

長さ 202 メートルで、2020 年完成予定の新内海橋は、現橋の上流約 100 メートルに県が整備を進めているようです。

石巻市中心部と湊地区を結ぶ内海橋の歴史は古く、初代は 1882 年に完成しているそうです。度重なる災害に耐えてきた内海橋は、4 代目になるそうです。

（参考：『石巻かほく』　2018/9/5　三陸河北新報社）

石巻市役所・石巻市立病院、（仮称）ささえあいセンターの 3 施設を 2 階でつなぐ歩行者デッキの建設工事の様子です。

歩行者デッキは総延長約 160 メートルとなる予定です。

周辺の市道も改良工事が進み、上下線ともに 2 車線になって行くようです。

工期は 2019 年の 3 月下旬までの予定。市役所周辺の景色も大きく変わってきています。

（参考：『石巻かほく』　2018/1/30　三陸河北新報社）

写真は、石巻市で建設が最後の復興住宅となる、新西前沼第三復興住宅の３号棟です。
平成 31 年３月の完成に向け、建設工事も内装工事まで進んでいます。

新西前沼第三復興住宅は、共助型の復興住宅として設計された市内で唯一の復興住宅の団地です。この３号棟に連なって在る１号棟、２号棟は既に、住民の方々が入居し、生活をされています。

仮設の跡地が、市民の集う新しい場所に姿を変えようとし、人々が繋がる為の新しい橋が造られ、そして最後の復興住宅の建築も間もなく終了します。

東北の春はまだまだ遠いのですが、こうした姿を目にすると震災の跡地に新しい芽が息吹くように感じ、早くも春の思いに浸ることがあります。少し前では、仮設住宅が無くなる風景に、なぜか寂しさや違和感を感じていましたが、今は新しい街に変わろうとしている様子を心強く感じることができるようになりました。

こうした風景を、また多くの皆さんに直接見て欲しいと心より思っています。

2. 夢と希望の会～新春ゲーム大会

石巻事務所
現地担当　　清水　大地

共生地域創造財団と当協会石巻事務所が共同で開催する夢と希望の会も、今回で５回目を迎えました。

2019 年に入り、最初の夢と希望の会と言うことで、「明けましておめでとうございます。」「今年も宜しくね。」と、会場に入って来られる方も。

まずは、『新春カルタ大会』。紅白のチームに分かれ、『仙台弁カルタ』と『シルバー川柳カルタ』の 2 回戦を行い、その合計枚数で競いました。仙台弁カルタは、石巻弁と少し違いがあるようで、「え～。聞いたことがない。」との声も。

初めは、遠慮からか、手を伸ばすのをためらうような方もいましたが、段々と身を乗り出し、札に手が伸びて行き、最後は大きな笑い声が飛びかっていました。「楽しいね。」と、思わず声がこぼれる方もいました。

次は、『新春ババ抜き大会』。８人でのババ抜きは、どうなるか想像もつきませんでしたが、ジョーカーが 2 周も 3 周もする盛り上がりぶりでした。ジョーカーを引いて思わず表情に出てしまう人や、涼しい顔をする人も。「今、笑ってるから（ジョーカー）が、あっちに行ったな。」と、お互いの表情の読み合いも加わり、楽しい一時になりました。

その後は、昼食まで、少し時間もあったので、花札やトランプをしたりと、各々で好きなことをする時間も設けてみました。じっくり、ゆっくりと時間を過ごすことができました。

昼食は、お弁当を全員で。「いい（弁当）箱だね。」「おしゃれだね。」と、見た目も華やかなお弁当を、全員で食べました。「やっぱり、みんなで食べるのは美味しいね。」と、皆さん完食されていました。

昼食後は、『今年の抱負発表会』。職員も加わり、全員で抱負を言い合いました。「北海道に行って、タラバニガニが食べたい。」と言う人や、「カラオケに行きたい。」という人。そして、「夢と希望の会に全て参加する。」と言う、嬉しい抱負の方も。次回の企画がカラオケと言うことで、早速、夢が叶うねと笑いも起きていました。

今回の夢と希望の会は、参加者の人数は少なかったのですが、そんなことを感じさせない盛り上がりを見せていました。参加して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

「会に全て参加する。」と言う声や、訪問をする度に聞く、この夢と希望の会に対する期待は、我々の糧になっています。この会が、参加者の皆さんの生活の中で、楽しみの一つになっていることを実感していきながら、今後につなげていくことができればと思います。

カルタ取の一コマ

真剣な表情で取札を見て、競い合いました！

3. WHO 版心理的応急処置研修に参加して

石巻事務所
現地担当　　佐藤　なおみ

12 月 14 日、仙台市にある仙台レインボーハウスにて開催された、WHO 版心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）（以下、PFA）研修に参加しました。

PFA とは危機的な出来事（自然災害など）で深刻なストレス状況にさらされたばかりの人々への人道的、支持的かつ実際に役立つ援助のことです。責任をもって PFA を行うとは、①安全、尊厳、権利を尊重する　②相手の文化を考慮してそれに合わせて行動する　③その他の緊急対応策を把握する　④自分自身のケアを行うことを意味します。PFA の行動原理はまずは準備。そして“見る”、“聞く”、“つなぐ”に基づき、支援をします。

研修は PFA の概要の説明を聞いた後に、被災直後の避難所を想定し、避難者側、支援者側、観察者に分かれて、ロールプレイをしました。その後、グループで被災時に深刻なストレス状況にある人に対して、どのように接するのかをいくつかのパターンでロールプレイをしました。研修の最後は支援者のためのケアが行われました。自分自身と同僚のケアについて、ロールプレイが行われ、最後は各グループで“個人として”、“同僚として”、“組織として”のケアに話し合われました。

私は、被災時に支援者側に立つことがなかったので、被災直後の被災者支援について知りたいと思っていました。この研修のロールプレイでは被災者側、支援者側の両方を体験することができました。被災者側に立って、支援してもらった時は、実際の時もこんな言葉かけられたら、嬉しかっただろうなという言葉をかけてもらい、気持ちが温かくなりました。支援側の時は、深刻な状況の人に対して、どのように接するかを判断するのが難しく、被災者に対して、かける言葉はかなり迷いました。最後の支援者のためのケアは、日常、あまり気にしていない自分自身のケアですが、このように話題に出されることで、休息やリラックスする時間がいかに大切かを知ることができました。

この研修で、私は危機的状況の方を支援する前に、自分自身が健康で万全な状態であることが準備であり、その上で PFA の“見る”、“聞く”、“つなぐ”を実践できるのだと感じました。まずは、自分自身を整えて、この研修で学んだことを毎日の支援活動に活かしていきたいと思います。

4．災害支援チームからのお知らせ

【1．書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！

発災から 2011 年9月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援･在宅被災世帯支援･市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年１月から 2014 年３月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この５月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年４月から 2016 年３月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45
バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50
バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54
バトンⅣ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL：http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」

URL：http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4‥feature=youtu.be

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 H31 年５月

（原則として ３ヶ月に１回の発行予定）

6．あとがき

石巻現地職員から

清水　大地

今期の冬は、雪も少なく、寒さだけが印象に残りました。最近は、気温も上がってきており、晴れの日は過ごしやすく、春が近づいてきていることを感じています。

巻頭の『石巻市応急仮設住宅現況報告』にあるように、仮設住宅で生活されている方々も少なってきました。

H30 年 4 月では、プレハブと民間賃貸借り上げの両仮設住宅で生活される世帯が、合計で 1900 戸を超えていました。その戸数も、今回の報告であるように合計 160 戸となり、この 1 年で 1700 以上もの世帯が仮設住宅から退去されたことになります。たくさんの方々がこの 1 年で新しい生活をスタートされていることを、この数字を通しても実感することができました。

また、私たちの石巻現地事務所もプレハブ仮設での仮住まいであるため、解体に伴い引っ越しをすることとなりました。昨年より新しい事務所探しを始め、今年になり引っ越し準備を着々と始めています。後は、引っ越しに向けての具体的な準備と、当日に力仕事を発揮する予定です！

震災から 8 年を迎えようとしています。石巻市内では、新たな建築物も増え、年を重ねるごとに新たな姿になっているように思います。

どうか皆様、着々と前に、復興に進んでいる石巻市に、足を運んでみてください。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 31 年 2 月 25 日　第８巻（第 3 号）
作成　日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局